

タンネウシ



02月号

タンネウシはアイヌ語で「長い・木の・群生しているところ」。博物館付近の地名です

特別展「ヒグマ——その現在・過去・未来」



ヒグマは知床の豊かな生態系を象徴する動物ですが、地域の暮らしや産業にとって困る面もあります。最新の研究成果から明らかになってきたヒグマの社会や生態、オホーツク・アイヌ文化期から現代までのヒグマと人の関わり、ヒグマ対策の最前線を展示で紹介しします。大型オスの生態を紹介する映像、考古資料、クマ対策用ごみステーションやフードコンテナなどを展示▶日時：2月1日(水)～3月31日(金)▶場所：交流記念館ホール▶観覧無料

連続講演会「ひぐま☆デイズ」

特別展に関連する講演会を開催します。▶場所：博物館2階、映像展示室▶入場無料、申込不要

(1) こんなに簡単！ ヒグマによる事故の防ぎ方▶日時：3月1日(水)

18:30～20:30▶講師：山中正実(知床博物館)▶内容：ヒグマというとても猛なイメージが強いですが、その実態は、これほどまでに人を襲わないのは驚きといっても良いほどです。山の神、キムンカムイとの正し

い付き合い方を学んでみませんか。
(2) 知床半島におけるヒグマ管理の現状とこれから——知床半島ヒグマ管理計画の改訂に向けて▶日時：3月2日(木) 18:30～20:30▶講師：前田尚大(環境省ウトロ自然保護官事務所)、増田泰(知床財団)▶内容：知床半島でいかに人とヒグマが共存していくべきなのか、管理の現状や平成29年4月からスタートする「知床半島ヒグマ管理計画」を紹介しながら考えます。

(3) 島根県における地域一体となったクマ対策——獣害に強い地域づくりを目指す▶日時：3月4日(土) 18:30～20:30▶講師：澤田誠吾(島根県中山間地域研究センター)▶内容：人口減少や高齢化の中、ツキノワグマをはじめさまざまな鳥獣の被害に対応してきた島根県の山間部での取り組みを紹介しします。

(4) 大都市札幌におけるヒグマ対策とその課題▶日時：3月5日(日) 14:00～16:00▶講師：佐藤喜和(酪農学園大学)▶内容：札幌市街地周辺の森林に暮らすヒグマの生息実態、世界に例のない「100万都市におけるヒグマとの共生」を目標にした札幌市の取り組み、今後目指すべき姿とその課題を紹介しします。

ミュージアムカフェ「古代人の食卓」

北海道の古代人たちは何を食べていたのでしょうか？ 斜里の発掘に参加した服部さんが、遺跡で見つかる様々な骨から古代人の食卓を解き明かします。珈琲・紅茶を用意



しています。▶日時：2月25日(土) 18:30～20:00▶場所：交流記念館2階、応接室▶講師：服部太一(慶應義塾大学修士課程)▶参加費：大人200円(協力会会員無料)▶定員：13名(要申込、最小開催人数5名)▶協力：知床博物館協力会

今月の学芸員のイチオシ!



ピンセット 3本持っていますが全てスイスのFontax社製。ごく軽い力で挟めるので長時間の繊細な作業が可能です。両手にもって顕微鏡をのぞきながらの植物解剖用2本と、携帯用1本を研ぎながら使っています。残念ながら同社は2010年に解散。(内田)

休館日 2月の休館日は6・13・20・27日の月曜日、11日(祝)です。

編集後記 タンネウシが300号を迎えたのを機会にレイアウトを変えました。裏面は先月号から、表面は今月号からです。(ひら)